

災害

なぎさ小学校 五年一組 小坂 優里菜

机もぐち^やぐち^や。周りは、焼けの原。私は、そんな風景を想像しただけでも気がくります。しかし、そんな風景を目^まいた人達は、くじけなくて生きています。どんなに、つらくても協力し、助け合い生きています。私は、そんな人達の事も考えず、十年間生きてきたと思います。別に、勉強をしても

「ああ、この人達は苦勞したんだな。」

と思うだけでした。だけど、本当に災害にあって、自分のできる事を精^{せい}いっぱいしよう^よ。と、思っている人に会^あって、初めて、自分の災害に對する気持ちが生まれました。

自分で、^いが^んば^らな^きや^だめ^だ。と、思う心も、災害の苦しさを乗り切^きった^べも^すご^いと、思いました。災害の事を、教えてくれた、人達に感謝し、今度は私達が、何か、災害について、できる事は、ないか。と、考えるべきだ。と、思いました。そして、私達が災害で家族を亡

くしてしまっただ人達の心の事も考え人とふれ合っ
ていきたいな。と思いました。

ボランティアの人達も自分達の事で大変なのに、現場に
来たり、救え人物資を送ってくれたりしました。そして
何より、災害で心がきずついている人達を支えてくれた人達
が、心の優しい人達なんだな。と思いました。私も、し
ょう来そんな人になれたらいいな。と強く思いました。

そして、そうなるためには、言葉使いには、
気をつけ、自分の思っただ事も正直に言い、他の人の事
も考える事などを、心がけないとき、ずついた人の心
を救えないと思いました。どうして、自分の思っただ
事も正直に言わなければいけないと思っただかと言
うと、私は、学校などでいやな事などがあつたりする
と、自分の中にためこんでしまい、ストレスがたまり
周りの人^の言う事が信じられなくなつた事があるから
です。そして、活発に活動している岸本さんみたい
になりたくなりました。